

きほくのまち人探訪

「泉貨紙雑貨、工夫を重ねて作り続けたい」



たなか すみこ
田中 寸美子さん

広報きほく6月号の表紙を飾った「成川溪谷グリーンマーケット」を主催している田中寸美子さん。鬼北町に伝わる伝統和紙である「泉貨紙」を様々なハンドメイド品に加工する、泉貨紙雑貨作家として活躍しています。

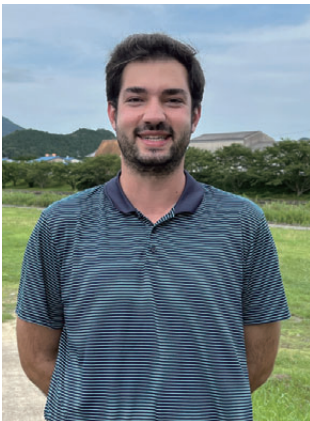
柿渋染めの泉貨紙を使ったハンドバッグや名刺ケース、コースターなどを手作りで制作している田中さん。布や革製品のような質感があり、丈夫で長く使える柿渋染めの泉貨紙雑貨は、近永のアエールきほくや宇和島市の木屋旅館、成川溪谷グリーンマーケットなどで販売されています。泉貨紙雑貨の他にも、陶芸・生け花・絵手紙・習字など多くの趣味に打ち込み、そこから

得たアイデアを、泉貨紙雑貨にも取り入れたり、使い古しの「大漁旗」や「こいのぼり」の生地を泉貨紙と一緒に縫い合わせ、強度と彩りを増す工夫を行うなど、作品を日々進化させています。

「泉貨紙を伝統産業として引き継いでいくためには、付加価値を付け、需要のある物を作っていく必要がある」と話す田中さん。地元の人にもまだまだ知られていない“泉貨紙の魅力”を伝えたい。そして、生業として泉貨紙に取り組んでくれる人が現れるよう、これからも様々な工夫を凝らし、楽しみながら泉貨紙雑貨を作っていきたいと、笑顔で話していました。

ALTの鬼の里Diary ~Brian編~

「It doesn't matter how difficult the words are」



みなさんこんにちは！私の名前はブライアン・カヒルです。

私は、アメリカのフロリダ州のタンパ市から来ました。タンパは、人口40万人近い大きな街ですが、その人口規模にもかかわらず、いつでも知り合いに偶然会うことができる、素敵な地域です。家を出て、知り合いと会うことが好きなので、鬼北のような小さな町に住むのが大好きです。

私がこの仕事に応募したとき、私の希望は四国に住むことでした。こんなに安全な国に居て、いい人たちに囲まれていることをとてもうれしく思います。

この町の人々はとても親切で、私はこのコミュニティの一員であることをうれしく思います。

私は鬼北に到着してから、まだ愛媛県の外に出ていません。私はここでの時間を本当に楽しんでおり、田舎で思い出を作るのが大好きです。鬼北での生活の素朴さにとても満足しています。

日本語が堪能になりたいので、よろしければ日本語を教えてください！言葉がどんなに難しいかは関係ありません！私はただ、全てを学びたいと思っています！よろしくお祈りします！

地域おこし協力隊活動日記

「三津浜に行ってきました」

地域おこし協力隊3年目
あわの まさおみ
栗野 正臣



早いもので、協力隊の任期もあと1年程となりました。やりたいことはまだまだありますが、変に焦らず、一つ一つ順番に取り組んでいきたいと思っています。

先日、松山市の三津浜という港町に行ってきました。手仕事でものづくりをされている方が沢山おられて刺激になりました。何人か、作り手の方と和紙の話をする機会がありましたが、泉貨紙についてはあまり知られていない様子。それだけに、改めて泉貨紙のこれからの可能性を感じました。

また、三津浜は古民家・空き家の活用

も盛んで、コンサートや演劇等のイベントに使ったり、飲食店や小売店、工房が入っていたりしていました。今あるものを活かし、その土地らしさを表現している所もあり、感銘を受けました。

和紙の活動に関しては、泉貨紙を使った小物づくりに取り組んでいます。コロナにより活動を自粛しなければならない状況も、まだ少し続きそうですが、泉貨紙に触れてもらうべく、これからは各種イベントへの出店販売にも取り組んでいきたいと考えています。